

石クリ通信

8月号
夏特別号

コロナ禍で考えたこと

院長 石川 悟

今や「コロナ」の文字が新聞やテレビに出ない日はありません。休業要請や外出自粛によって一時減少した感染者数もこのところ急激に増加に転じ、政府のGo Toキャンペーンも「なんで今頃？」と批判を浴びています。

新型コロナがなぜこれほど社会的な問題になったか。

すでにいろいろなところで論じられているので存知の方も多いと思いますが。ひとつはウイルスの特性があります。非常に感染力が強いこと、そして症状が軽い人も感染源になること、そして効果のある治療薬がなく、重症化して死亡するリスクも低くないことです。

インフルエンザのように感染力が強くて、重症になる人がそれほど多くなければ、医療崩壊を起こす心配はありません。また2003年SARS(重症急性呼吸器感染症)が中国で発生した時、日本はむしろ全世界的に封じ込めに成功しました。SARSと今回の新型コロナの違いは、SARSは非常に重症化が早い、発見が比較的容易で、死亡する人も多かったため、対策が取りやすかった面が大きいのです。それに対して新型コロナ肺炎は感染力が強く、重症の人入院治療が必要である有効な治療薬はなく、また回復まで2週間近くかかるので、あつという間に病院のベッドは満床になります。また院内感染で医療従事者も罹患すると悲惨な状況に陥ります。病院はコロナだけを治療しているわけではないので、心筋梗塞や急性腹症など緊急に手術や処置が必要な患者さんの対応ができなくなると、医療崩壊になってしまいます。幸い今のところ日本ではうまく回避できていますが、これからの第2波も油断はできません。

飛沫感染について

コロナ禍で「飛沫感染」という言葉が一般でも使われるようになりました。咳やくしゃみの時もマスクでウイルスの飛沫が飛散するのを防げるという動画がテレビで何度も放映されています。ただご存知のようにマスクをつけていれば自分の感染を防げると思うのは誤りで、飛沫はマスクのメッシュの網目より小さく簡単に通過しますし、マスクの表面に付着したウイルスは手などの接触で口や鼻から入って来ます。つまり頻回の手洗いの方が感染防御の上では非常に大事です。使い捨てでないマスクも洗剤で洗えばウイルスはほとんどなくなります。が、心配な人はアイロンをかければ完璧です。

結核菌や麻疹(はしか)は「空気感染」と言われ、飛沫感染よりもっと厄介です。細菌やウイルスが小さな粒子となって、空气中を舞っている、N95マスクという特殊なマスクで感染を防ぎます。日本ではBCG接種や麻疹の予防接種が行われており、多くの人が免疫を持っているので社会的な問題になることはあまりありません。

なぜPCR検査が簡単にできない？

新型コロナに感染しているかどうかの診断ではPCR検査が必要で

す。新型コロナ感染症は感染症法で本年2月「指定感染症」とされました。確立された治療法がないため、一人の患者を治療することよりも、社会に蔓延するのを防ぐことに主眼がおかれ、感染した人をどのように隔離するか、接触した人を迅速に見つけ出し感染の連鎖をいかに抑えるのが問題となる疫学的アプローチが必要となります。この作業の中心になるのは病院や診療所ではなく、各地域の保健所です。茨城県でもコロナ禍の前までは保健所の人員削減や保健所統合で、保健所業務は縮小傾向の業務が何十倍にも増え、またPCR検査を行う県の衛生研究所でも設備や人員を急に増やすわけにはいきません。民間に検査を委託したり、保健診療が可能となることで、今後検査数が増えることが期待できそうですが、現状ではまだまだ足りない状況です。

新型コロナは制圧できるか。

人類は歴史的にいろいろな感染症を克服してきました。天然痘、ペスト、コレラ、結核、ポリオ(小児麻痺)など多くの人の命を奪った感染症は、完全に制圧できているとは言えませんが、それほど社会的な脅威にはなっていない。新型コロナ対策で一番期待できるのはワクチンです。有効なワクチンが開発され、世界中で投与できる体制が確立すれば、「学校も休み、外食もできず、旅行にも行けなかったあの頃は大変だったね」と懐かしそうに思うくらいになるのではないかと期待しています。またこれを機会に、感染症に対するワクチンや予防接種の重要性が、一般の人にもっと理解されるべきだと思っています。

コロナ禍のもたらしたものと

休業要請や外出自粛などで、外食業界、旅行業者、ホテルなどが経済的に非常に大きなダメージを受け、さらにはオリンピックの延期を始め、各種イベントやスポーツの大会も中止や延期を余儀なくされ、世界全体が大変な状況になっているのは、報道されている通りです。このようにひどいことばかりの中でも何かいいことはなかったかと考えると、いくつもあります。まずITを使った遠隔のコミュニケーションが進歩したことで。ネットを使った会議、テレワークなども、実際にやってみると、想像以上に便利であるのがわかったことです。コロナが収まった後でも通勤の時間がなくなれば、その時間を家族団欒にも使えます。その他にレストランなどがテイクアウトを始めたので、弁当などの質が上がっておいしくなったこと。また個人的な趣味の話で恐縮ですが、ゴルフでスループレーが推奨され、やってみるとゴルフに集中できて意外に良いことがわかりました。

非常事態の中の不寛容

地震、台風などの被災地で、電気やガスなどがストップし、食料や水が不足して人々が困窮する中で、市民が節度を持って給水車などに整列している日本人の姿に、

海外から賞賛の言葉が送られることがあります。大きな災害が起きた時に、海外の大都市で群衆が略奪行為を行っている映像がしばしば流れます。今回のコロナ禍でも日本では政府の「要請」を国民全体がしっかりと遵守し、感染を最小限に抑えています。しかしこの非常事態の中で、日本人の精神の貧困が表れた事態がありました。自粛ポリスなどと呼ばれる正義感の強い人による脅迫に近い行動、新型コロナの患者を治療している医療機関の職員や子供に対する嫌がらせや誹謗中傷、保育園への預入れ拒否などです。また東京から帰省した子がコロナを持ち込んだとして、家の塀に落書きされたり、石を投げ込まれるなどの過激な行為も実際に行われたようです。新型コロナに対する恐怖感が日本人の心の奥に潜んでいる排他的な感情を呼び起こしたのかもしれない。

三密回避

先日ロータリークラブの夜間例会が久しぶりに開かれ、お酒も入って盛り上がりました。楽しいひと時でしたが、後で冷静に考えると、参加している人が一人でも新型コロナにかかっていたら、ほとんどの人に感染してしまうだろう、と思える状況でした。「三密回避」とか「ソーシャル・ディスタンス」とか言われるように、なるべくリスクを避ける行動が大事です。また東京など感染のリスクが高いところに出かけたら、自覚症状がなくてもその後何日かは家から出ず、少しでも感染を広げないための努力が必要であると思います。

最後に

当院はX線撮影の設備もなく、また院長は呼吸器疾患に詳しいわけではありませんが、咳や発熱、喉の痛みなどがあり、近隣に呼吸器専門の優秀な先生方がおられますので、ぜひへの受診をお願い致します。



石クリ通信 100号記念 スタッフ全員集合記念撮影